

再発又は難治性の濾胞性リンパ腫及び辺縁帯リンパ腫

リツキサン(リツキシマブBS)+レブラミド(R<sup>2</sup>)併用療法 患者プロトコール

催吐リスク
<b>軽度</b>
放射線併用なし

投与プロトコール (併用療法: 1~5コース、レブラミド単剤: 6~12コース) 《開始時基準 PS:0-2、年齢:18歳以上》	投与量	投与日	投与時間	備考
--	-----	-----	------	----

**1コース目**

ルートKeep	ソルデム3A 500mL	500mL	day1,8,15,22	—	(*ステロイドは患者毎に投与を検討する。
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(*)		day1,8,15,22	30分前	
①	<input type="checkbox"/> リツキサン	375mg/m <sup>2</sup>	mg	day1,8,15,22	添付文書参照
	<input type="checkbox"/> リツキシマブBS				
生食で1mg/mL以下の濃度に調製					
内服	レブラミド: 20mg/body	mg/日	day1-21	1日1回	眠前

**2~5コース目**

ルートKeep	ソルデム3A 500mL	500mL	day1	—	(*ステロイドは患者毎に投与を検討する。
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(*)		day1	30分前	
①	<input type="checkbox"/> リツキサン	375mg/m <sup>2</sup>	mg	day1	添付文書参照
	<input type="checkbox"/> リツキシマブBS				
生食で1mg/mL以下の濃度に調製					
内服	レブラミド: 20mg/body	mg/日	day1-21	1日1回	眠前

**6~12コース目**

内服	レブラミド: 20mg/body	mg/日	day1-21	1日1回	眠前
----	------------------	------	---------	------	----

※腎機能障害のある患者では、クレアチンクリアランス/透析の有無によって、レブラミドの投与量及び投与間隔の調節を考慮して下さい。

下記は、レブラミド適正使用ガイド(用法・用量はシミュレーションに基づき算出)より引用

<再発又は難治性の濾胞性リンパ腫及び辺縁帯リンパ腫>

**腎機能障害患者に投与する際のレブラミド開始用量の目安**

中等症 (30 ≤ CLcr < 60 mL/min)	重症 (透析不要) CLcr < 30 mL/min	重症 (透析必要) CLcr < 30 mL/min
レブラミド10mgを1日1回投与で開始し、 2サイクル終了後、忍容可能な場合は15mgに増量可能	レブラミド5mgを1日1回投与	レブラミド5mgを1日1回投与 (透析日は透析後に投与)

◆リツキサン(リツキシマブBS)、レブラミドどちらかが中止となっても単剤で継続することは可能。

(リツキサン/リツキシマブBS単剤時は最大8回まで(添付文書上、B細胞性非ホジキンリンパ腫に対して最大8回の記載)/レブラミド単剤時は計12コースまで)

◆リツキサン(リツキシマブBS)は1mg/mL以下の濃度で投与を行う。また、投与24時間以内に現れやすいinfusion reaction

(発熱、悪寒、頭痛等)を軽減させるため、投与の30分前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤等の前投与が必要。